



中部電力



中部電力ミライズ

ユーザー参加型の 再生可能エネルギー拡大モデルの概要

2023年1月25日
中部電力株式会社
中部電力ミライズ株式会社

1 本モデルの概要

【中部電力グループ】

既設発電所の改修等を通じて再エネを増やしたいが、中部電力グループのみでの拡大には限界がある



【ユーザー（コンソーシアムメンバー）】

再エネ電気の利用だけでなく自らも主体的に再エネ拡大に協力したい

ユーザー参加型の再エネ拡大モデル

改修の計画段階から
ユーザーが参加

対象水力発電所の
選定・提案

自社の「追加性」条件に
適合する発電所を選定

追加性を含む
電力需給契約

増電分を含む
再エネ電気

増電分の「追加性」への
対価※を付加して負担

非FIT再エネ電源
の拡大へ

増電分を含む再エネ電気

発電所の改修費用に充当



既設水力発電所の改修・増電



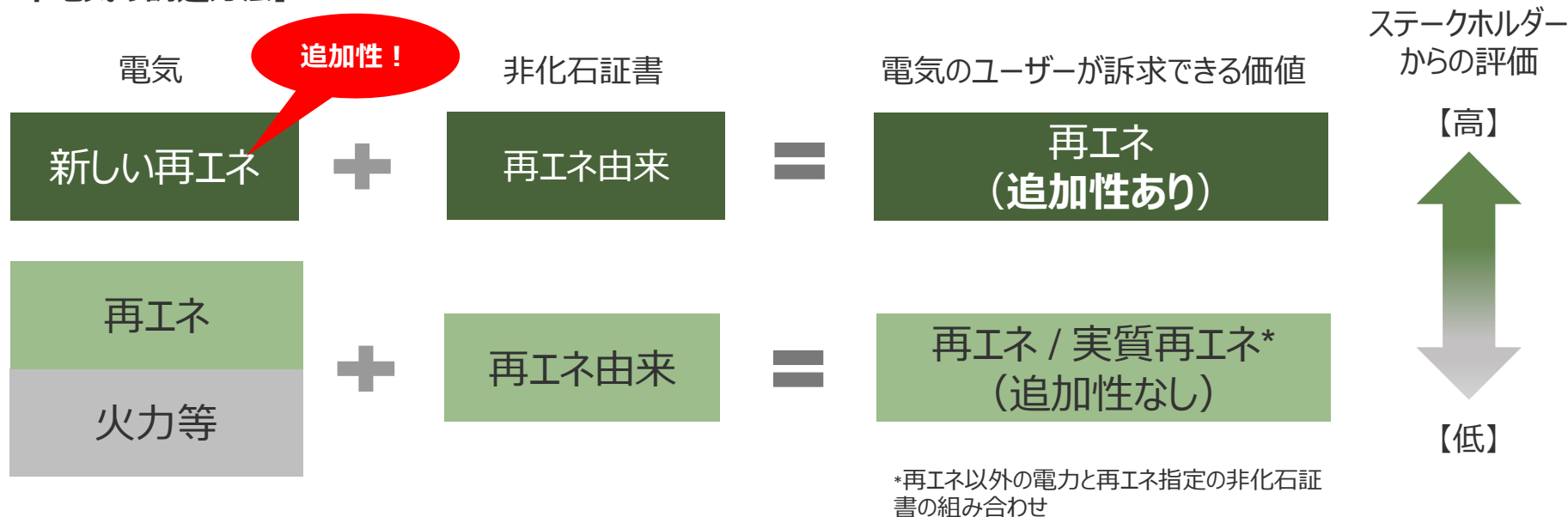
再エネ電気の販売

※改修に必要な費用から中部電力グループが負担する費用を引いた分相当。

2 「追加性 (additionality) 」とは

- ・「追加性」とは「**再エネ電気の購入にあたり、再エネ電源の既設改修や新規開発等により再エネの量の増加に資する効果があること**」を意味する。
- ・電気のユーザーは、非化石証書を購入することで、個社として再エネ電気の活用を訴求できる。
- ・さらに、**追加性のある再エネ電気を購入することで、実際に社会全体の再エネ拡大への貢献を訴求できる。**
- ・欧米を中心とするグローバル企業では、2030年までにサプライチェーン全体でカーボンニュートラルを達成するため、再エネ電気の活用だけでなく、「追加性」のある再エネ電気の導入を求められつつある。

【再エネ電気の調達方法】



3 コンソーシアムメンバーの概要

会社名	本社所在地	設立	事業概要
Applied Materials, Inc. (アプライドマテリアルズ) 	アメリカ カリフォルニア州	1967年	半導体製造装置、フラットパネル製造装置、 太陽電池製造装置の開発および製造
Micron Technology, Inc. (マイクロン) 	アメリカ アイダホ州	1978年	半導体メモリの開発および製造
Skyworks Solutions, Inc. (スカイワークス) 	アメリカ カリフォルニア州	2002年	半導体メモリの開発および製造

4 大井川水力発電所1号機の取り組み

中部電力グループ



- ・大井川水力発電所1号機を設備改修



- ・ユーザーとの窓口、契約締結

ユーザー（コンソーシアムメンバー）



- ・大井川水力発電所1号機の設備改修による追加性への対価を負担
- ・大井川水力発電所から中部電力ミライズを通じて追加性のある再エネ電気を受電

大井川水力発電所1号機の改修

○高経年化の進む水車ランナを変更することで、発電効率の向上を見込む

→年間発電電力量約190万kWhの増加



【大井川水力発電所】

所在地	静岡県榛原郡川根本町
発電出力	68,200kW
運転開始	1936年10月
改修工事	2024年10月～2025年4月



参考：中部電力ミライズの「地産Greenでんき」との比較

	再エネ価値	追加性
本モデル	○	◎（特定の電源の追加性に貢献）
「地産Greenでんき」※	○	○（県内を中心とした電源の追加性等に貢献）

※長野・静岡・三重・岐阜・愛知県の各県内の水力発電所から調達した電気に、当該電気に由来する非化石証書の使用により環境価値を付加した、再生可能エネルギー100%かつCO2ゼロエミッションな電気メニュー（「信州Greenでんき」「静岡Greenでんき」「三重 美し国Greenでんき」「ぎふ清流Greenでんき」「愛知Greenでんき」）

「地産Greenでんき」：電力の地産地消を通じて県産電源の維持・拡大に貢献



地産電源の維持・拡大

本モデル：追加性に対しての対価を再エネ電源の増加に充てることで主体的に再エネを拡大



追加性

以上